

2021 年度さくらねこ無料不妊手術事業

一般枠アンケート 集計結果

さくらねこ無料不妊手術事業とは

どうぶつ基金の「さくらねこ無料不妊手術事業」は野良猫や多頭飼育の猫に対して不妊手術を行い、猫への苦情や殺処分の減少に寄与する活動です。

2021 年度は 3,142 名の個人(一般枠)、43 団体、213 の行政と協働し、約 55,000 頭のさくらねこ無料不妊手術を実施しました。

一般枠での無料不妊手術実施数 26,314 頭

団体枠での無料不妊手術実施数 2,883 頭

行政枠での無料不妊手術実施数 25,257 頭

多頭飼育救済枠(行政枠)での無料不妊手術実施数 1,260 頭(うち犬 21 頭含む)

無料不妊手術実施頭数 総合計 : 55,714 頭

1. アンケート概要

2021 年度に「さくらねこ無料不妊手術事業」に申請があった協働ボランティア(一般枠)に事後調査アンケートを実施しました。

※一般枠とは:行政枠、団体枠に属さない個人ボランティア

- 2021 年度さくらねこ無料不妊手術チケット一般枠申請者数 3,142 名
- アンケート対象となる一般枠マイページ登録者数 11,152 名(2022 年 3 月 31 日時点)
- アンケート有効回答数 1,756 件(マイページ登録者数 11,152 名中)

2. 協働ボランティアの男女比

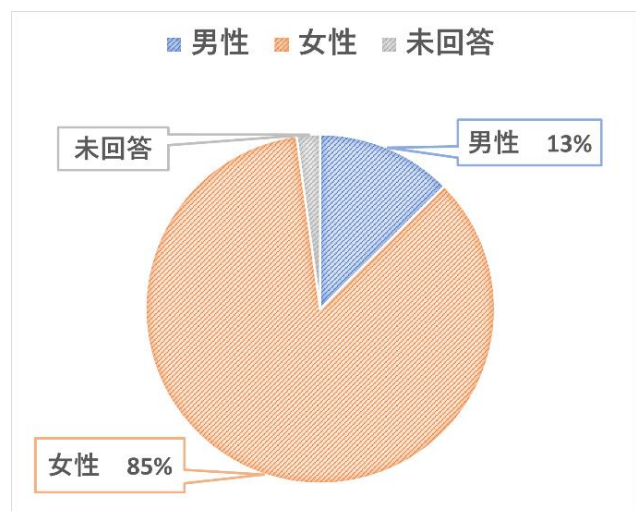
男 性 : 221 名

女 性 : 1,497 名

未回答 : 38 名

85%が女性でした。

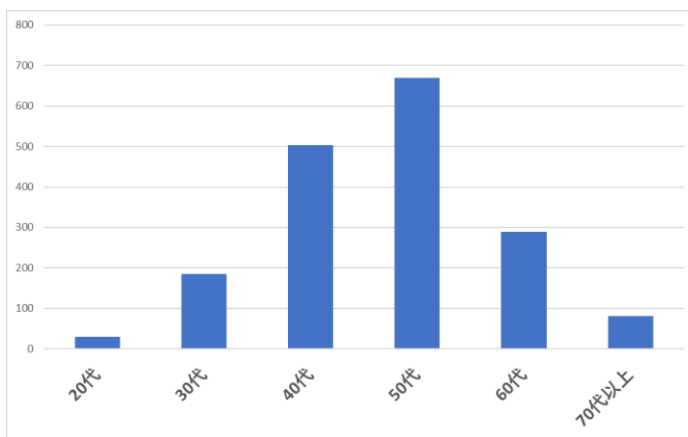
例年、女性が 8 割超を占めています。



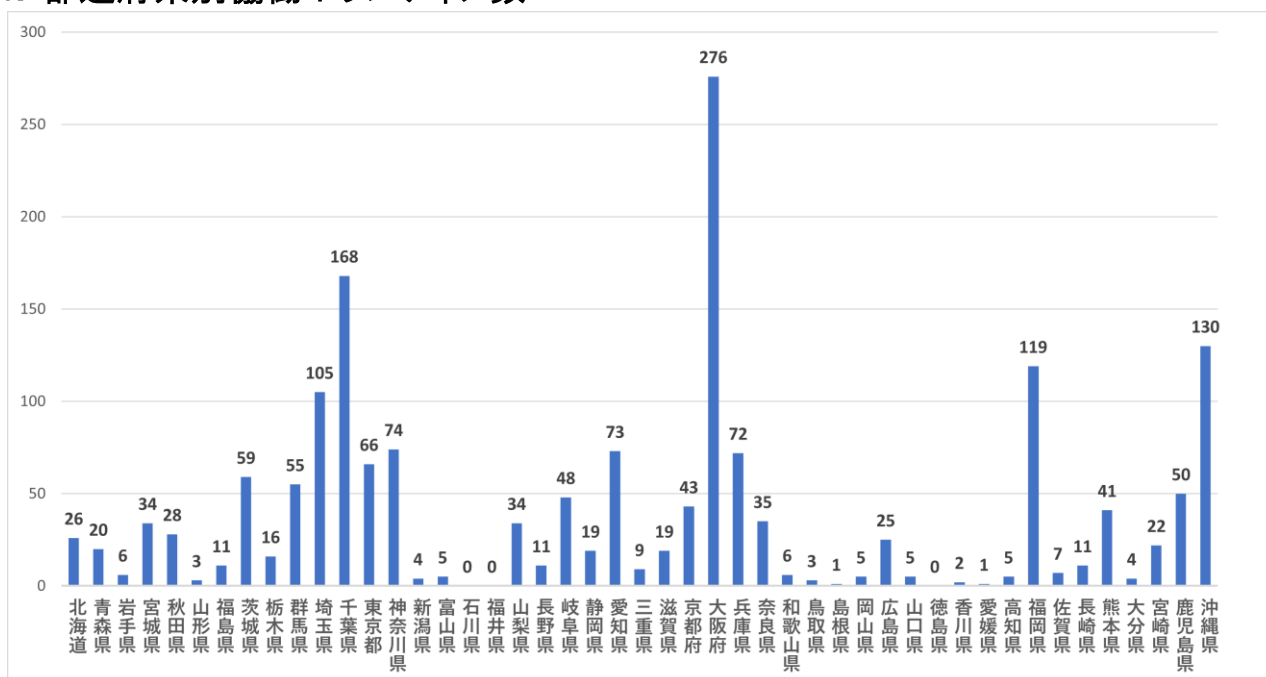
3. 協働ボランティアの年齢層

20代： 29名 50代： 669名
 30代： 185名 60代： 289名
 40代： 503名 70代以上 81名

40代以上が88%、20代は2%でした。



4. 都道府県別協働ボランティア数



大阪が最多の状況は変わりません。3番目にボランティア数が多い沖縄県では、協働ボランティア数に比べてチケット受入可能数が少なく、チケット配布が困難な状況が続いています。

5. 配布チケット数について

2021年度に配布を受けたチケット数(有効回答 1,689件)	票数	%
1～10	692	41.0%
11～30	248	14.7%
31～60	104	6.2%
61～100	37	2.2%
100～200	24	1.4%
201以上	4	0.2%
配布なし	580	34.3%

配布されたチケットの使用率(有効回答 1,364 件)	票数	%
100%	501	36.7%
80～99%	267	19.6%
60～79%	121	8.9%
40～59%	110	8.1%
20～39%	55	4.0%
1～19%	26	1.9%
使わなかった	284	20.8%

57%のボランティアが 80%以上の使用率でした。新型コロナウイルスによる活動自粛などは落ち着きを見せたものの、未使用率は全体の 21%に上っています。猫が捕獲できなかったという理由が最多ですが、捕獲対象の猫が姿を見せなくなったという報告も多くありました。人の動きが変わったことが少なからず影響しているのかもしれませんが。

6. 猫の実態

さくらねこTNRをした猫は行政に公式に認められた地域猫ですか	票数	%
はい	117	7%
いいえ	1639	93%

行政が公式に認めた地域猫は、昨年度同様 7%でした。

あなたがエサやりなどの世話をしている外猫の数	票数	%
0	393	22.4%
1	116	6.6%
2～5	590	33.6%
6～10	315	17.9%
11～15	135	7.7%
16～20	87	5.0%
21～30	64	3.6%
31～50	40	2.3%
51～80	11	0.6%
81～250	5	0.3%
250 以上	0	0%

7. さくらねこTNRを実施した猫の変化

TNRを実施した地域の猫に関して(複数回答)	票数	%
子猫の出産が減った・ほぼゼロになった	1364	78%
猫の性格が穏やかになった	711	40%
さかり声、ケンカが減った・ほぼ無くなった	835	48%
尿臭が激減した・ほぼなくなった	292	17%
猫の健康状態が良くなった	534	30%
その他	137	8%

その他の回答内容としては、「TNR を始めたばかりでまだ分からない」という報告が最多でした。

TNR後の猫の数について	票数	%
猫の数が減った	880	50%
猫の数は変わらない	773	44%
猫の数が増えた	103	6%

猫の数が増えたケースでは、未手術の猫が出産してしまった、新たに猫が遺棄された、他の地域から別の猫が来るようになった等の報告がありました。

8. さくらねこTNRを実施した地域住民との関わりの変化

地域住民との関わりの変化について(複数回答)	票数	%
住民の理解が得られた	635	36%
苦情が減った	450	26%
餌やりさんのマナーが改善された・意識が向上した	415	24%
協力してくれるひが増えた(できた)	902	51%
地域の人に感謝された	631	36%
猫を可愛がってくれる人が増えた	550	31%
その他	206	12%

「これまで苦情や文句を言うだけだった住民と、普通の日常会話ができるようになった」など、関係が改善される事例が数多くある反面、「近隣とのトラブルを避けるために人目を避けて活動している」という回答も一定数ありました。また、TNR をしたことで住民からは感謝されたものの、餌やりさんとの関係が悪化したという回答もありました。

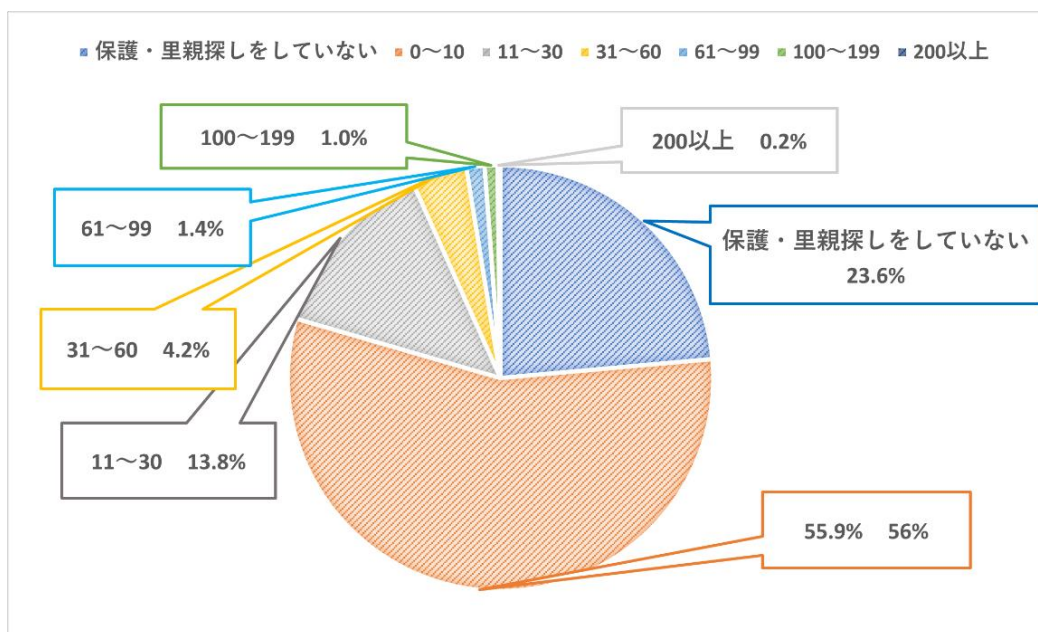
住民と猫ボランティア(あなた)の関係は	票数	%
良くなった	694	40%
変わらない	1041	59%
悪くなった	21	1%

「悪くなった」との回答では、「糞尿被害が改善されず理解が得られない」、「餌場が住宅地となってしまう、新規住民から餌やりをやめるよう苦情があった」等の報告がありました。

9. 猫の保護や里親探しの実態

猫の保護および里親探しをしていますか	票数	%
はい	1343	76%
いいえ	413	24%

過去一年間に保護、里親探しをした猫の数	票数	%
保護・里親探しをしていない	414	23.6%
0～10	982	55.9%
11～30	242	13.8%
31～60	73	4.2%
61～99	24	1.4%
100～199	17	1.0%
200 以上	4	0.2%



1,342 名(76%)の協働ボランティアが 16,295 頭の猫の保護、里親探しをしました。

飼っている(保護中を含む)猫の数	票数	%
0	197	11.2%
1	170	9.7%
2~5	710	40.4%
6~10	366	20.8%
11~15	137	7.8%
15~20	84	4.8%
21~30	56	3.2%
31~50	23	1.3%
51~80	11	0.6%
81~100	1	0.1%
101 以上	1	0.1%

10. 今後の課題

今回の課題や問題(複数回答)	票数	%
人手不足	816	46%
資金不足	1160	66%
捕獲がうまくできない	669	38%
行政との調整	508	29%
地元地域との調整	752	43%
その他	147	8%
特になし	118	7%

「その他」の回答では、行政や警察の無理解に悩む声が多く寄せられたほか、餌やりさんとの関係に悩む声が増えています。また、リターンできない場合や子猫を保護する場合の保護場所・費用に関する問題、里親探しの難しさ、啓蒙活動の不足などのほか、協力病院に関する課題(利用していた協力病院がなくなった、予約が取りづらい、遠方で搬送困難)も寄せられました。

11. 飼い猫の捕獲について

2021 年度の本事業で飼い猫を捕獲した事があった	票数	%
はい	149	8%
いいえ	1607	92%

アンケート回答者 1,756 名のうち 149 名(8%)が、飼い猫を捕獲したことがあったと回答しています。通常は、飼い猫と確認できた時点で手術はせずに元に戻しますが、誤って不妊手術を行った事例が 1 件ありました。

質問:間違って手術した猫について、飼い主とはどう解決しましたか？

- ボランティア仲間と飼い主とで話し合いを行い、何とかおさまりました。

12. ピックアップコメント

- 個人で少しずつではありますが、不幸な猫たちを減らしたくて毎月 TNR させていただいています。無料不妊手術チケットのおかげで、確実に耳カットのある猫たちが増えており、今の現場では今年はまだ子猫を見かけておりません。これからも油断せず見守り続けていきたいと思ひます。
- 皆様のご寄付のおかげでさくらねこが増えてきて、子猫の姿をあまり見かけなくなりました。これからも頑張ってさくらねこを増やしていき、猫さんたちを守りたいと思ひます。本当に感謝しかありません。ありがとうございます。
- ご寄付をしてくださる方々のおかげで、不幸な命を 1 匹でも少なくすることができております。正直、私達 TNR 活動家だけでやれることは少ないです。配布されたチケットを有効に使えるよう、私達もがんばりたいと思ひます。ありがとうございます。
- 皆様のご寄付は、猫たちだけではなくボランティアの心の支えにもなっています。いつもありがとうございます。
- 家族で TNR 活動をしていますが、無料不妊手術チケットのおかげで大変助かっています。チケットを知る前は自費でしていたため、予算的にも限度があり、なかなか猫の数を抑えることができませんでした。現在はチケットのおかげで猫の数をかなり抑えることができました。これも全てサポーターの皆様のおかげです。いつかチケットを使う側ではなく寄付する側に回れるよう、今は目の前にいる野良猫の TNR をがんばりたいと思ひます。

- 地方自治体と協力した TNR 活動のニュースを耳にすることが増えました。活動の輪が広がっていることが嬉しく、そして活動を支えてくださるご支援者の方々に感謝の気持ちを忘れないようにしたいと思いました。
- いつもありがとうございます。何年か続けている無料不妊手術チケットによる TNR のおかげで若い野良猫はかなり減ったように思います。すべての猫が家の中で暮らせる世界が一日も早く実現するように行動あるのみです。
- おかげさまで私が TNR を行っている地域では、未避妊の猫はいなくなりました。現在 45 頭ほど元気に健やかに暮らしています。チケットを発行していただいて本当にありがとうございました。
- まだボランティアの駆け出しですが、去年は全て自腹で TNR 費用のほか、怪我や病気の猫の医療費を支払っており、金銭的に限界を感じはじめた時に、どうぶつ基金の無料不妊手術チケットを知りました。発行していただいているチケットのお陰で、今も TNR を続ける事ができています。また、手術代がかからない分、手術をした猫たちにワクチンを打ってあげることができるようになりました。いつも支えていただき、本当にありがとうございます。
- 実家の庭や近所に多くの猫が姿を見せいているのを愛らしく思うも、夏生まれの子猫が冬に弱って死んでしまったりする姿を見て、今ある命を大切に生きてほしいという想いが募るようになり、懐いた子から不妊手術を自費で施したりしておりました。しかし地域猫の数が多く、そのうえ雌となると手術費用が嵩むため全頭に手術するのは難しく、新顔の子猫が増えていく光景を忸怩たる想いで見ていたところ、無料不妊手術チケットに個人でも申し込めることを知りました。今年の 2 月からの利用で既に 9 頭手術を受けることができ、繁殖シーズンを迎えても皆のんびり暮らしております。人も猫も平穏な生活が遅れているのは、寄付者の皆様のおかげです。本当にありがとうございます。
- 個人での活動は金銭的にとても厳しく、どうにかしてやりたいと思った時に皆様のご寄付は猫にも、人の助けにもなります。手術を終えた猫は、見た目も穏やかになり、とても可愛らしくなります。本当にありがとうございます。
- どうぶつ基金のチケット使用により、餌やりさんへの声掛けがとてもスムーズに行えています。さくらねこになったことで一代限りの命として認識され、肩身の狭い野良猫から温かな気持ちで見守られる地域猫になれました。新顔猫が現れてもすぐに TNR でき 7 年以上子猫が誕生しない地域も数か所確認できています。早め早めの対応を心掛け、寄付をいただいた皆様にたくさんのさくらねこの姿を確認し安心していただきたいと思います。

13. 総括

- 例年、資金不足と人手不足が課題として挙がってきますが、資金不足は言わずもがな、人手不足も深刻な状況であると言えるでしょう。協働ボランティアの年齢層を見てみると 40 代以上が 88%を占めており、この年齢構成はここ 8 年ほど大きな変化はありません。今後の推移を見ていく必要はありますが、TNR に取り組むボランティアや餌やりさんの高齢化が進んでいることが想像できます。今回のアンケートでも「活動を引き継いでくれる人がいない」という不安の声が寄せられました。個人ボランティアの活動による成果を継続するためには、その地域で活動を引き継ぎ発展させていく存在が必要不可欠です。その役割を果たすことができるのは、行政において他にありません。行政が適正に関わることで活動の意義や一貫性が保たれ、住民の理解も得やすくなります。行政の協力を引き出すには、TNR の有効性を理論的に証明することはもちろん、粘り強い交渉が求められます。
- 飼い主のいない猫の不妊手術に助成金を出す行政は年々増加していますが、その多くは自治会など地域住民の理解・同意を得ている地域猫活動であることなどを条件としています。しかし、93%ものボランティアが行政が正式に認めていない地域で活動しているというアンケート結果を見れば、行政が実施する助成金制度は実状に合っていないと言わざるを得ません。
糞尿被害や繁殖期の鳴き声などに悩む地域住民がいるなかで、地域猫活動に理解や同意を得るには大変な時間がかかります。そのために時間を費やしている間にも、猫は繁殖してどんどん増えていきます。きっと、同意を得られる頃には行政が用意した予算では対応できなくなっていることでしょう。
アンケート回答のなかには、行政に対して、地域住民との連絡調整、ボランティア同士が情報交換できる場の提供、広報や啓蒙活動などの要望がありました。助成金以外にも行政にできることはたくさんあります。その要望をしっかりと行政に伝えていくこと、それもどうぶつ基金の重要な役割の一つです。
- 個人での活動には大きな苦勞が伴う反面、「猫を介して地域の方との会話が増え、不審者情報の交換ができるようになり、虐待予防につながっている」「猫へのいじめや事故が減った」「TNR 活動を続けて 6 年目にして良い結果が見え、それと平行して地域住民の方から野良猫が少なくなったと直接感謝される機会が増えた」などの嬉しい報告も数多くありました。
また、今回のアンケートで目立ったのは多頭飼育崩壊への対応に苦慮しているという報告です。所有権や福祉の問題などが複雑にからみあう多頭飼育崩壊に、民間のボランティアのみで対応するのはとても危険なこと。多頭飼育崩壊の情報を把握した時、速やかに行政に連携できるような協力関係を日頃から築いておくことが大切です。